

サロベツ再生通信

2015.5発行 第21号

上サロベツ自然再生協議会運営事務局

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
豊富町
環境省北海道地方環境事務所
北海道開発局稚内開発建設部
北海道宗谷総合振興局稚内建設管理部
林野庁北海道森林管理局

今年10周年！第6期【上サロベツ自然再生協議会】始動

『湿原と農業の共生』を目指して、平成17年にスタートした上サロベツ自然再生協議会は、今年ついに10周年を迎えました。去る、平成27年2月19日（木）、豊富町民センターにて第14回上サロベツ自然再生協議会、及び第15回再生普及部会が開催されました。また、3月5日（木）には、第20回再生技術部会が開催されました。

2年任期の協議会は、今年が構成員の改選期にあたり、梅田会長をはじめ以下の方々が再任されました。なお、今期からは地元の豊富小学校・豊富中学校・豊富高校が新たに加わり、全体で49名（団体含む）となっております。

普及部会では、サロベツ・エコモー・プロジェクトの取り組みが広がっていることなどが報告されました。また、技術部会では、湿原と農地の間に設けられた緩衝帯のモニタリング結果が良好であることなどが報告されました。（裏面で自然再生事業を紹介しています）



＜協議会会長＞
梅田 安治 氏
（農村景観研究所所長/
北海道大学名誉教授）



＜再生技術部会座長＞
井上 京氏
（北海道大学農学研究院教授）



＜再生普及部会座長＞
高瀬 清氏
（認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク代表理事）

サロベツ・エコモー・プロジェクトへのご参加を！

サロベツの自然・歴史・文化を楽しむ活動を通して、湿原と農業が共生する地域づくりを進めるためのプロジェクトが、「サロベツ・エコモー・プロジェクト」です。

地域の方々が既に行っている活動も登録できますし、活動を知ってイベントに参加していただくことも可能です。

詳しくは「エコモー」で検索してホームページをご覧ください。サロベツで活動する仲間とつながりましょう！



昨年は30団体・30活動の登録がありました



登録された活動には
ロゴマークが付いています

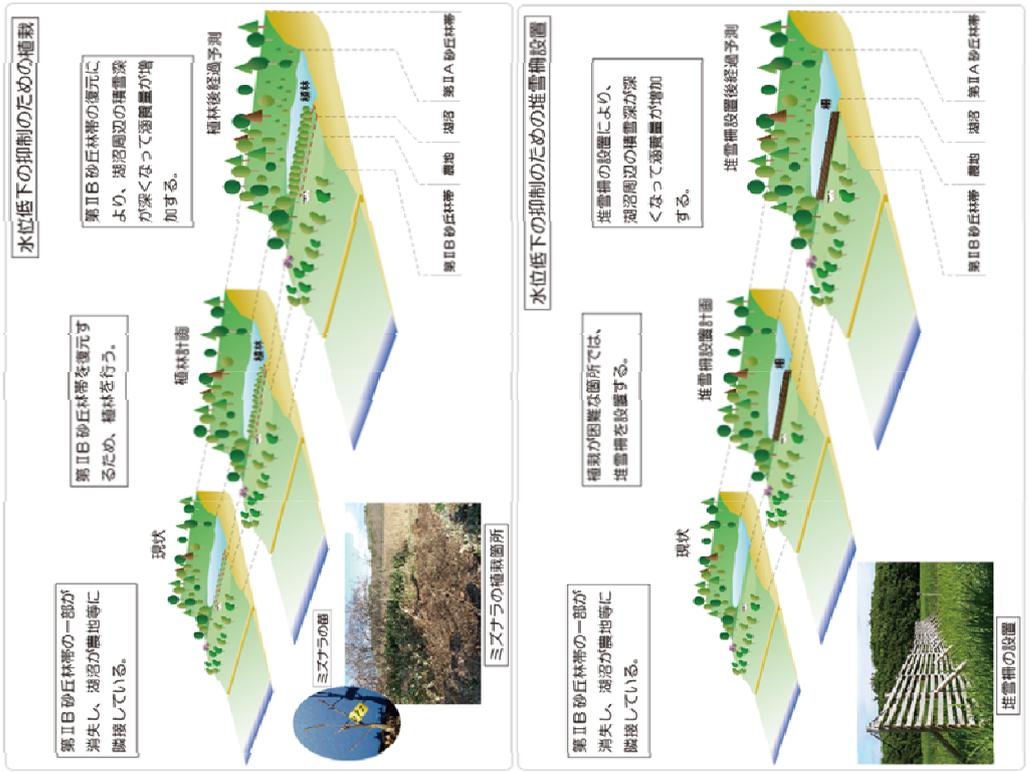


昨年度実施された活動の一例です。詳しくはホームページ(<http://www.sarobetsu.or.jp/ecomo/>)に掲載中。

自然再生事業紹介⑤【稚咲内砂丘林自然再生事業】その2 ～水位低下抑制及び修復・保全に向けて～ ※2回に分けて掲載しております

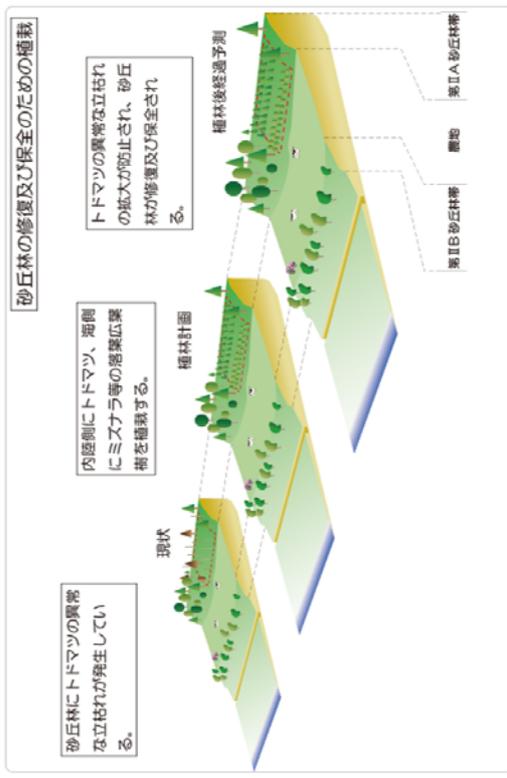
【砂丘林帯湖沼群の水位低下を抑制】

「目標（1）砂丘林帯湖沼群の水位低下を抑制するため、第ⅡB砂丘林帯の一部が消失している湖沼において、第ⅡB砂丘林帯の主要な構成樹種であるミズナラの苗木を植栽して第ⅡB砂丘林帯を復元します。また、植栽の実施が困難な箇所については、植栽の代替措置として、堆雪槽の設置を行います。」



【砂丘林を修復及び保全】

「目標（2）砂丘林を修復及び保全するため、トドマツの異常な立枯れ箇所において、トドマツを植栽して砂丘林を修復します。なお、トドマツの植栽を行う箇所の湖側には、第ⅡB砂丘林帯の主要な構成樹種であるミズナラ等の落葉広葉樹の植栽も合わせて実施し、植栽するトドマツに直接海風が当たらないようとしてトドマツの立枯れを防止します。」



※植栽に用いる苗木は、稚咲内に自生している細土種の種子から育てられた苗や山どり岳の確保を基本とします。

苗木の樹種は、砂丘林の樹種組成を勘案し、常緑針葉樹ではトドマツ、落葉広葉樹ではミズナラやイタヤカカエデを中心として選定します。

V 施策の有効性の検証

本事業の実施に伴うモニタリングは、「第ⅡB砂丘林帯の復元状況」、「第ⅡB砂丘林帯の復元に伴う湖沼水位の変化」、「トドマツの異常な立枯れ箇所の修復状況」を評価の対象として実施するものとします。モニタリング調査は事業の実施中～実施後に逐って継続的に実施し、本事業の効果が認められなかった場合や新たな課題が発生した場合は、その原因を検討し、必要に応じて本事業における自然再生の手法や施工計画等の見直しを行うものとなります。